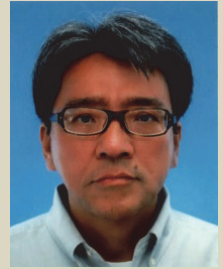


流体機械の開発設計の ノウハウを活用し、新しい 発電システムを開発

これまで廃棄されていた既存温泉を低コストの地産地消のエネルギー源として活用する、新型の発電機「湯けむり発電」を開発。

所在地：大分県大分市小野鶴 183-2
TEL 097-574-6071
FAX 097-574-6072
URL：<http://www.turboblade.jp/>

代表取締役 林 正基
設立：1999年(平成11年)
資本金：1,000万円
従業員数：4名



低コストの地産地消のエネルギー源として有望な、新型の発電機を開発

ポンプ、ファン、水カタービン、風カタービン、ガスタービンなどの流体機械全般の開発設計を行う。また、温泉井戸から汲み上げられる熱水で発電できる新型の発電機「湯けむり発電」を開発した。温泉井戸の低温熱水（100～140℃）を活用し、熱水と蒸気の混合した噴流のエネルギーを特殊な2相流タービンにより回転動力に換えて発電を行う新しい発電システムを開発。これまで利用されず廃棄されていた既存温泉の活用であるため、低コストの地産地消のエネルギー源として有望である。



世界初の特種な2相流タービンにより、低温熱水蒸気のエネルギーを徹底的に有効利用

同社が開発した発電設備は、熱水と蒸気の混合した噴気のエネルギーを世界初の特種な2相流タービンにより、熱水が持つ熱と圧力エネルギーをタービンの回転動力に換えて発電を行い、低温熱水蒸気のエネルギーを徹底的に有効利用するために極低圧駆動蒸気タービン部や出口真空用復水器部を持つ。

また、利用した熱水は再度温泉のお湯（60～80℃）としてこれまでどおり利用でき、既にある温泉井戸を利用できるため、新たな掘削が不要で低コストで建設でき、従来の地熱発電との差別化がなされている。



地域の女性をエンジニアとして人材開発

同社は、すべての従業員が女性（4名）であり、3次元設計や流体解析等の最先端技術を習得させる等、地域の女性をエンジニアとして人材開発している。

